



水 水は私たちが飲んだり、洗濯せんたくしたりと日常生活になくではありません。
“水”について考えてみましょう。

私たちは川の水のほか、地面の下にある水、“地下水”も利用しています。その地下水を利用するためには、地面を掘ってつくる“井戸”が必要です。市内でも以前は、左の写真のような井戸がたくさんありました。

丸井戸 今は水道の普及によって利用が少なくなりましたが、昔は飲料用など生活用水として利用されていました。この丸井戸は地下水の流れをみる上で利用価値があります。井戸の水面が地下水面を示しているからです。丸井戸の水面の高さをつないでいくと、その高さの変化から地下水がどの方向に流れているかを知ることができます。

地下水 地下水はやがて地面から出てきます。それが、湧き水です。その湧き水も昔は井戸と同じ様に、飲み水などいろいろなことに利用していました。右の写真は湧き水がたまるようにつくった池“タナヤ”です。このタナヤは、稲の種もみをつけておくなど、農作業にも利用していました。



タナヤ（桑納）

水と生活 湧き水は、地下水が地表面に現れたもので、その湧く状況は地質構造や地形に大きく影響されます。

左下の写真の自噴井戸は、水田の用水として利用されていました。市内の代表的な湧水として“乳子清水”ちっこしみずや“元八海”もとはっかいなどがあります。

井戸水や湧き水などは、大切な自然の恵みのひとつです。井戸水や湧き水は自然の営みに大変影響を受けやすく、雨が少なくなるとかれたりもします。そのため、昔の人々は、井戸や湧き水を大切にしました。右下の写真のように“水神様”を祭ることもその現れです。しかし、現在この水神様を祭っているところには、ほとんど湧き水がなく、くぼんだような形を残しているだけです。



自噴井戸（堀の内・人工湧水）



かれてしまった湧き水跡にのこる弁財天

調査報告書より

市内にある井戸の数は確認しているだけで、約1600本ありました。そのうちほとんどの井戸は飲料水以外の目的で使われていますが、ある地域では飲料水として使っている井戸もあります。また、その地域の井戸は、機械ではなく人の力で掘った直径1m程度の井戸がたくさんあります。それは、丸井戸と呼ばれています。丸井戸は地面から深くても10m程度の深さしかありません。その中にある水面（地下水面）までは浅く、人の力でその水をくみ上げることができます。そのため、地震などの災害時にも水を使うことができる、大切な井戸といえます。